

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	570106898
法人名	医療法人 惇慧会
事業所名	グループホーム エン・サラ
所在地	秋田県秋田市新屋北浜町21-47 (電話) 018-823-6713
評価機関名	秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1-1
訪問調査日	平成20年10月30日

【情報提供票より】(平成20年10月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)13年11月19日
ユニット数	2ユニット
職員数	12人
利用定員数計	18人
常勤	12人
非常勤	0人
常勤換算	12人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200円	

(4) 利用者の概要(10月5日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	5名	要介護2	8名		
要介護3	5名	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 82.1歳	最低	71歳	92歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	外旭川病院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

多診療科を設けている同法人内の病院と事業所との密接な医療連携体制が、このホームの大きな特色の一つである。医師が毎週往診し、利用者の健康状態を把握しており、24時間何時でも医師による指示が受けられ緊急受診もできることで、職員が安心して対応できる体制となっている。広いホーム内には様々なオブジェや絵画の他、美術工芸短大の学生による多くの作品も展示されており、他ホームと違った趣がある。また、利用者が展示された学生の作品に興味を示し、話しのきっかけができたたり、学生と共同で作品作りに取り組むなど、交流が持たれている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価時にカーテンで仕切られていたトイレの一部を、プライバシー配慮の点からアコーディオンカーテンに取り替えたり、職員の休憩室を設ける等の改善がされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	できていることのほか、できていないことや今後の課題も明記され、自己評価に前向きに取り組まれている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域の代表として町内会長・家族が出席し、運営推進会議を実施しており、ホームに寄せられた苦情や事故等について報告がされている。しかし、定期的な開催の実施には至らず、ホーム側の今後の課題としている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の状況や変化に応じて、家族には随時報告がされている。寄せられた苦情・要望や相談に対応しながら、できるだけ迅速に対策が行なわれるよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所の敷地内では、地域の方たちが子どもと遊ぶ姿が見られたり、地域での行事に招待され参加する等、グループホームが地域に馴染んできている事が窺える。また、美術工芸短大の学生による作品展示やボランティア等との交流もある。

2. 評価報告書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念を柱に、5項目の基本方針に基づいて支援している。	○	地域に密着した事業所の実現やホームらしい支援を行うため、そのホームの特色に基づいた、独自の理念や基本方針をつくりあげることが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者である医師が毎週往診に来る他、運営者・管理者等を含め法人内の各施設が合同で理念の共有や関係作りの場を儲け、共にサービスの向上に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りや保育園の運動会に招待されたり、冬には雪かきを手伝ってもらおう等、地域との交流が図られている。	○	この地域に暮らす一員として、ホームや利用者の一人ひとりが町内や地域に還元できるよう、ホーム側から地域に働きかける交流も期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の結果をふまえ、トイレのカーテンをアコーディオンカーテンにしたり、職員の休憩室を設ける等の改善がなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではヒヤリハットや事故報告に関する検討等が行われ、サービス向上に活かすよう努力されている。	○	運営推進会議を定期的に行い、よりよいサービスの向上提供に活かされていくことを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者支援について適切なサービス提供のため市町村と連絡を取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料請求時に預かり金の領収書を添付し、金銭出納を報告している。また、行事等の写真があるときは写真を添付している。更に、随時電話や来所時に、利用者個々の様子を報告している。	○	預かり金等の金銭出納のほか、受診時の結果報告や日々の状態、暮らしの様子等も定期的に報告されることが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	寄せられた苦情・要望や相談に対応し、対策や検討が行われており、改善に向けた取り組みがされている。取り組みには期間を決めて第三者による事業所評価がなされている。	○	家族等からの意見や不満・苦情についての検討内容や対応に関して、改善の経過や結果等も報告し、出された意見を運営や日々のケアに活かされていくことを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等については、報告という形はとっていないが、家族が来訪した際や利用者には随時伝えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修はもとより、外部の研修にも出席している。また、個々の研修希望を受けたり、職員自ら研修の立案、実施に携わるなど積極的に取り組んでいる。	○	専門職としての研修にとどまらず、認知症に関する家族やボランティア等の専門職以外の方の視点に立った研修等も期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他地域のグループホームと交流し、スタッフが相互実習する等、サービス向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	ホーム利用前には、本人にホームを見学していただいたり、事前面談を行なう等、本人や家族の思い・希望・要望等を聞き取りながら不安の解消に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	午後のひと時に、利用者の方たちと職員が語らいの時間を持ち穏やかに会話する等、共に過ごし支えあいながら生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	得意料理を作ってみたいという、利用者の希望実現に向けて検討している等、その人がやれること・やって見たいこと等を日々の場面を通じて聞き取るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人とは、随時話す機会を持ち意見や要望が計画に反映されるよう努め、介護計画作成者と管理者が共同で作成している。また、計画作成後は、本人や家族に同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングへの補助票が備えられ、日々気付いたこと・状態の変化・それに応じた対応等が記載され、介護計画の見直しが行なわれている。また、本人の状態の変化や家族の要望に応じて、随時業務分担票に盛り込み、支援している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接する同法人の施設と連携し、職員の自己啓発や研修を積極的に行っている。訪問看護師による勉強会を実施し、医療知識や状態の変化に応じた対応や緊急事故の対応方法の習得に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医療機関と24時間いつでも相談・受診ができる体制ができている。毎週月曜日には内科医師の往診があり、今後は精神科の定期受診を検討中である。入居時は家族と相談の上、かかりつけ医の変更を行っている。	○	家族・利用者の希望をふまえ、事業所の協力医の他、近隣医等複数の医療機関とも関係を築きながら、適切な医療が受けられるよう検討を重ねていくことが望まれる。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでのところ重度化された方や終末期を迎える方がおられず、事業所としての方針を立てるには及んでいない。状態に変化が見られた場合は、状況により利用サービスを変更されたり、本人や家族の同意を得た退居となっている。	○	法人が老健を有し、連携医療機関はホスピスを実施しているなど、その経験やノウハウの蓄積、法人としての医療連携の特色を有効に活用し明確な方針を立てられることが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は穏やかな言葉かけをしながら、さりげなく利用者に手伝いの手を差し伸べていた。個別のファイルは、日常鍵のかかる戸棚に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴や日常の会話を通して、その人の好きなこと・やりたいこと・できること等を探り、応えていけるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を洗う・刻む・調理するなどの一連の作業に数人の利用者が加わり、手馴れた様子で食事の準備をされていた。2ユニット分を一箇所の台所で調理しているが、調理に参加できない場合は盛り付けを担当するなど、役割ができています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	毎日の入浴が可能であり、当日の様子を窺いながら希望を聞いている。入浴日や時間を決めることで、安心して入浴している方もいる。入浴拒否をされる方には様子を見ながら入浴を促している。	○	入浴を拒否される方には、様々な対応をして入浴を促しているが、困難な場合もある。本人、職員、家族や他の施設等との検討を重ね、取り組みを相談し進めていくことが期待される。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や食事の配膳、清掃等、その人なりの役割を見つけ支援している。ぬり絵や刺し子等、個々の楽しみごとの他、日常的に興味を持ってできるようなレクリエーションや、簡単な体操等の実施に取り組んでいる。	○	個々の楽しみのほか、レクリエーションや体操等で、メリハリをつけながら日常生活が送れるような支援を模索中である。張り合いや喜びといったことが、少しずつでも日常の中に見出されるよう継続された支援が望まれる。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や状態を見ながら、希望される方は散歩をしている。要望に応えたいとの思いはあるが、買い物に出かけたいなどの要望に即時に対応できないこともある。	○	年間計画に基づいて季節や祭事を取り入れた行事や外出は実施されている。更に、利用者が事業所の中だけで過ごさず、日常的に外出できるような個別の支援が工夫されていくことが望まれる。
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中玄関は施錠されず、誰でも気軽に訪問できるようになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画にのっとり、消防署の協力を受けながら定期的に避難訓練を実施している。災害対策のマニュアルを整備し、毎月自主点検を行っている。地震や台風などの自然災害を想定した対策は今後の課題としている。	○	明確にされた課題に取り組むと共に、これまでの避難訓練をさらに充実し、総合的な訓練が繰り返し実施されることが期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士作成の献立表を元に栄養バランスに配慮されて食事が作られている。摂取量には個人差があるため、ご飯の量を増量したり、摂取量の少ない方には他の食品等に対応したりしている。	○	個別の状態や病態によっては、家族等と相談しながら、更にきめ細かい配慮が期待される。
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は綺麗に片付けられ、気持ちよく使用できる。美術短大の学生による展示や昔懐かしい家屋の一部が展示されるなど、居心地よく過ごせるよう工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室担当者があり、なじみの物や本人に合わせた居室となるよう心がけ、居室内の清掃の状態や不具合がないかを確認したり、片付けを手伝ったりして居心地よく過ごせるよう支援している。		

※ は、重点項目。